

工夫を凝らした大作に浸って！

牛丸和人個展 ～西洋の東 東洋の西～



うしまる かずと
牛丸和人さん

多久の豊かな歴史や文化が紹介されている郷土資料館では、現在の多久市の文化も紹介して頂くというご縁があって、多くの方に足を運んでもらえ嬉しく思います。

各作品には説明文を添えています。多久にもこんな画家がいるのかと、知っていただければ幸いです。

これまで中央公民館や市立病院、東原庁舎、学校などにも作品を寄贈し、郷土資料館展示の御厨夏園が描いた『多久茂文公の肖像画の模写』や教育委員会が発行した『高取伊好物語の漫画読本』、財団法人孔子の里が所蔵する紙芝居『多久物語』なども手掛けた牛丸さんは、旧J A多久市の広報紙『J Aたく』の表紙絵と短歌・エッセーも担当。

昨年末には駅に設置の多久聖廟巨大絵馬にデザインした孔子さまの絵を教え子と制作し、多久市の歴史とともに非凡な才能を惜みなく提供されています。

実は、多久聖廟創建300年を記念した龍の爪が宝玉をつかんでいる様子と創建者の多久茂文公を表現した『記念バッジ』も牛丸さんのデザインです。

牛丸さんは「本業の教職で力を注ぐのが大原則ですが、仕事以外の分野やボランティア活動に係っている姿を子どもたちに見せるのも教育だと思っています。これからも自分を育ててくれた故郷に出来る範囲で恩返ししたいです」とお話しです。

多久市郷土資料館では6月30日まで、多久の「今」の文化を紹介する新しい試み、『牛丸和人個展～西洋の東 東洋の西～』を開いています。

牛丸さんは、多久町在住で現在、東脊振中学校教頭。佐賀大学大学院修了後、教職の傍ら創作活動に取り組み、佐賀県展知事賞をはじめ多くの受賞歴を持ち、高い評価を受ける画家です。学校では、美術指導はもちろん、教育行政にも従事。心豊かな生徒が育つ環境づくりにも熱心に活躍される人望の厚い先生です。

各地で開く個展でも、多くのファンを魅了する牛丸作品。今回、地元で展示しているのは、100号サイズの7点で、歴史や神話をモチーフにしたものです。

アクリル絵の具を使い、漆喰を塗った板に描いた作品やキャンバスに砂を混ぜた下地を塗り砂絵のような風合いを出した作品など、実験的な工夫を凝らした大作ばかりです。

4月10日から行われているこの個展は作品の一部入れ替えも予定しており、6月に入ると、違う作品も鑑賞できます。

参観者は「心が揺れる絵に出会え、感動しました」や「丁寧に描きこまれた作品に生命力や神秘の温もりを感じます。一作一作に添えられたコメントも素敵」などと話し、表現の世界に浸っていました。

■問い合わせ

多久市郷土資料館（西溪公園内） ☎75-3002

市長コラム

温 | 故 | 創 | 新

Message for citizen

「見えない敵」への危機管理

宮崎県で発生した口蹄疫の感染拡大がとまらな
い。5月22日朝の時点で確認された感染疑い・確定
例は171例となり、殺処分すべき数は実に13万3
千頭を超えた。数日で数値は急増した。

5月13日に嬉野で開かれた九州市長会では、政府
に緊急対策を要請する決議を議決した。私も「一刻
を争う事態だけに早急に政府へ要望を」と発言し、
翌週17日には農水省・総務省を訪れた。18日には東
原宮崎県知事が伝染病による非常事態を宣言。
畜産王国宮崎への壊滅的打撃と全国的な感染拡大
の危惧を表明した。国も動き出し、17日午後からは
山田正彦農林水産副大臣が宮崎に張り付き、政府の
現地対策本部の指揮をとることになった。

その後、種牛の感染も確認され、佐賀牛ブランド
への影響も懸念される。県内肉用牛の約15%が宮
崎県からともいわれており、市内県内の畜産関係者
にとっても心配は募る。消毒・防疫体制強化等で家
畜と農家を守らねばならない。

この問題、3月末に感染を疑われた水牛の症例、
4月20日頃にも症例があったとのこと。そのころ
厳密検査されていれば対処は早かったはず。感染
拡大中の5月連休に赤松農林水産大臣は外遊した
ことに危機意識欠如と初動の遅れを指摘する声も
あがっている。感染拡大防止のため、現地畜産農家ほ
かの移動制限、往来車両の消毒等が行われている。

10年前も発生したが、迅速対応で早期に沈静化し
た。しかし今回はそうはいかぬ状況だ。見えない
敵への危機対策が問われる。国・県・市町村ほか
協力し、封じ込め等の対策強化が最優先だ。（俊彦）